

2. 中学校の事例

「違い」を認める
～障がい理解～

学年等

1 年生 総合的な学習の時間など

ねらい

- ◇ 自分の特性を理解しながら夢をかなえた人について知り、私たち一人ひとりが「違い」をもつ存在であることに気づく。
- ◇ 「違い」をいじめや排除につなげるのではなく、認め活かすことができる集団とは、どのような集団なのか考える。

【指導について】

- ▽ ワークショップを通じて、生徒一人ひとりの考えや思いを互いにしっかりと聞くとともに、違う意見に対しても受け入れたり、同感したりする大切さを理解させる。
- ▽ アメリカの俳優（トム・クルーズ）が自分の特性（難読症）を理解しながら夢をかなえたエピソードを資料にして、一人ひとりの「違い」について考えさせる。
- ▽ 生徒自身の誕生のエピソードを聞き取ることによって、生命の尊さを理解し、かけがえのない自他の生命を尊重する大切さを考えさせる。

取組みの流れ

< 全 4 時間 >

第一次 ワークショップ 「言葉でコピー」「わたしは誰でしょう」

第二次 トム・クルーズの難読症について

第三次 誕生エピソードについての交流

第四次 「わたしのいもうと」を読んで話し合う

（作：松谷みよ子 絵：味戸ケイコ 偕成社）

展開例

第一次 1 時間 ワークショップ

□ 「言葉でコピー」「わたしは誰でしょう」

【目標】自分とは違う様々な個性や立場を持った人への理解を深める。

学 習 活 動	指 導 の ポ イ ン ト	備考(準備物)
1 「言葉でコピー」ワークショップ ・ゲームの方法を聞く。 ・指示に従って、白い紙に絵を描く。 「まるを三つと、棒を一本かきましょう」 ・書いた絵を交流する。 ・ゲーム終了後、感想を話し合う。	・一人ひとりの考えたことや、思っていることが違っていることに気づき、違っていても当たり前だということを確認する。 ・それぞれの感想を、相手に伝わるように話をさせる。	白い紙 命令カード

<p>2 「わたしは誰でしょう」ゲームをする。</p> <p>・5人の有名人の特徴的な文章と写真から、誰かをあてる。</p> <p>A ハンス・クリスチャン・アンデルセン</p> <p>B アルバート・アインシュタイン</p> <p>C トーマス・エジソン</p> <p>D 黒柳徹子</p> <p>E トム・クルーズ</p> <p>・5人の人物に共通していることを話し合う。</p> <p>・ゲーム終了後、感想を話し合う。</p>	<p>・子どもの頃に、個性的で周りとは違うと見られていた人物が、周りの理解や本人の努力により、人より秀でた部分を伸ばして夢をかなえてきたことを知る。</p> <p>・有名な人物だが、一人ひとりの特徴が違うこと、また、そのことから苦労や努力をしてきたことについて知る。</p>	<p>5人の特徴的なエピソード文と写真を掲載したワークシート</p>
--	---	------------------------------------

【ワークシート】

わたしは誰でしょう？有名人クイズ

Q1 A～Eは誰のことを説明した文章ですか？ヒントの写真を見て考えよう！

<5人の写真>

【ヒント語群】

黒柳 徹子
アルバート・アインシュタイン
トム・クルーズ
トーマス・エジソン
ハンス・クリスチャン・アンデルセン

- A 少年時代、彼は文字を読むことが苦手だった。しかし、後に世界でもっとも読み継がれているたくさんのお話を創作した。デンマークの詩人・童話作家で、『みにくいあひるの子』『人魚姫』『はだかの王様』などが世界中で親しまれている。 ()
- B 彼は4歳まで話さなかった。勉強も苦手で、友達ともなじまず、スポーツにも無関心、暗記ができない。質問してもすぐ答えず、答えても口の中で何度も繰り返している。大学受験にも失敗。後に彼は相対性理論の基礎を築き上げたその業績から、20世紀最高の理論物理学者と言われている。1921年にノーベル物理学賞を受賞。 ()
- C 小学校に入学するも、教師と相性があわず中退した。小学校当時、算数の授業中には「1 + 1 = 2」と教えられても理解することができず、「1個の粘土と1個の粘土を合わせたら、大きな1個の粘土なのになぜ2個なの？」と質問したり、国語の授業中にも「A（エー）はどうしてP（ピー）と呼ばないの？」と質問するといった具合で、授業中には事あるごとに「なぜ？」を連発していたという。電話機、蓄音機、電球、発電機などを発明し、「発明王」と呼ばれる。 ()
- D 「森」という文字を書こうとしても位置関係がとれず「木木木」と書いてしまう。最初に登校していた私立小学校を退学になった。大人になってからは、30年以上続く日本初のトーク番組『徹子の部屋』の司会や、累計750万部を誇る戦後最大のベストセラー『窓際のトットちゃん』の著者として知られる。 ()

E 12歳のときに両親が離婚したため、経済的に苦しい生活を送った。学生時代はスポーツに熱中するが挫折し、その後、演劇に関心をもつようになった。1986年の『トップガン』の世界的大ヒットでトップスターの仲間入りを果たした。 ()

Q2 A～Eの人物に共通することはなんだろうか？

Q3 教室で彼らが「自分への自信」を失わないため、どんなことが必要だと思いますか？

Q4 人にはそれぞれ個性や違いがあります。自分の個性を伸ばすためにどんなことができると思いましたか。

～よみもの～

「子どもの頃はすごく孤独でさびしかったよ。なぜかって？字が読めないから周りの連中にかからわれ、いじめられていたんだよ。だから、子どもの頃の私はすごい内気で静かな少年だったよ。」「一生懸命、文章を読んだけれど、読み終わった後にはほとんど何も記憶に残らないんだ。自分に失望し不安を常に感じ、常にストレスを感じていたんだ。字が読めない自分を恥じていたしね。」

子どもの頃から字が読めないことを隠し続けてきたトム・クルーズ。何回か転校を繰り返していたが、その都度、字が読めないことを隠してきた。しかし授業でそのことがばれてしまう。子どもの頃のつらい体験が、大人になっても忘れることができない。しかし、そんな彼にも心から信頼できる仲間がいた。

「いつもお母さんと3人の姉妹と遊んでいたよ。」トムにとって一番の理解者であり友達であるのは家族であった。「お母さんは当時、3つの仕事をかけもちしていたよ。それに僕たちの世話もきちんとしてくれたんだ。『トム、あなたはすごい才能と可能性を持っているわよ。』『決してあきらめちゃダメよ。』」といつも励ましてくれたんだ。宿題や勉強も根気よくつきあってくれたんだよ。」

第二次 1時間 トム・クルーズの難読症について

【目標】他とは「違う」自分が、「ありのままの自分」でいられることの大切さを実感する。

学 習 活 動	指 導 の ポ イ ン ト	備考(準備物)
1 ハリウッドで活躍するトム・クルーズの簡単な紹介を聞く。 ・12歳までに転校7回、転校先でのいじめ、父の暴力、貧困、両親の離婚、高校時代アキレス腱の損傷により大好きなレスリングをやめる。難読症である。	・トム・クルーズの写真を用意し、馴染みの深い人物であるが、様々な苦勞を乗り越えていることに共感を持って聞けるように話をする。 ・難読症についての説明をし、理解させる。	トム・クルーズの写真など
2 トム・クルーズのインタビューを観る。 (NHK番組 発達障がいについて 3分)	・夢をかなえるには、自分なりに生きていくことを知ることや自己を表現することが必要になるが、本人の力だけでなく、周りの理解も大きく影響していることをおさえる。	NHK番組ビデオテープ
3 人それぞれの個性や違いについて、自分や周りの仲間はどうかについて、考えて話し合う。	・自分なりの感想を持ち、自分の言葉で言えるように書いてから発表させる。	

<生徒の感想>

「トム・クルーズのこと」を学習して

- トム・クルーズが必死で努力を積み重ねて自分の難読症を克服したことは、かっこいいし尊敬できた。もし、自分のクラスにトム・クルーズのような子がいたら、俺は本気で役に立ちたいし、「あいつがおらんかったら、今の俺はないやろな。」と思わせる人になりたい。人の体のこととか特徴をネタにしている芸人が消えていくみたいに、人の「違い」をネタにするやつは、中学生までは友だちがいるかもしれないが、高校生になって他中学から来た人に嫌われると思う。
- 今のクラスは人と人との「違い」を認められるクラスだと思う。からかうようなヤツはいないし、ネタにされている人もいない。でも、Aみたいに自分のことをまだ口に出せない子もクラスにいると思う。もし、人のことをネタにしてからかっているヤツがいれば俺は絶対に止める。
- もし、友だちにトム・クルーズのような人がいれば、今の自分はバカにしないけど、うまく関われるかどうかわからない。今のクラスでもからかわれている人はいると思う。あまり「違い」を認められてないように思う。自分を出せている人は出せていると思うけど、それをからかう方向へもって行って、その人を傷つけている。勉強がわからない子にやさしく教えるという感じではないと思う。そこはみんなを変えなければいけないと自分は思う。
- 実は、私も運動は苦手だし勉強も苦手で、他の友だちはどちらかが得意なのに、なんで私は両方苦手なんだろうと思っていました。自分の部屋で必死に特訓したことを思い出します。小さいとき自分の体の特徴を言われて何度も泣いたことがありました。今のクラスでは、……。まだ出せないと思う。自分のことを出したら、他の人に言いふらされそう……。

第三次 1 時間 誕生エピソード（生命の学習）についての交流

【目標】一人ひとりが「違う」特別な存在であることを実感する。

学 習 活 動	指 導 の ポ イ ン ト	備考(準備物)
<p>◎ 家族に事前聞き取り</p> <p>1 聞き取ったことを交流する。</p> <p>・家族に事前聞き取りをしたときの家族の様子について交流する。</p> <p>2 名前の由来について、発表する。</p> <p>・一人の生徒の名前の由来を発表し、感想を出し合う。</p> <p>・自分と似ている点、違う点などを聞き取ったことをもとにして発表する。</p> <p>3 誕生エピソードについて発表する。</p> <p>・一人の生徒の誕生エピソードについて発表し、感想を出し合う。</p>	<p>・事前に保護者へのアンケートを依頼し、生徒自身に聞き取らせる。聞き取りが難しい家庭については、十分配慮する。</p> <p>・一人ひとりの名前の由来については、何らかの保護者の思いがあることに気づかせる。</p> <p>・発表する生徒については、特に伝えたいところや、伝えて欲しいことを十分に打ち合わせておく。</p> <p>・家庭の事情を十分に把握し、伝えきれない場合は、補足をしたり、説明をしたりできるようにしておく。</p>	<p>保護者への依頼状</p> <p>アンケート用紙</p>

4 聞き取りしたと重ねて、命の大切さについて話し合う。	・生まれてきた命を大事にするとともに、他の人の命も大切にしていかなければいけないことについて、それぞれの思いや考えを出しあう。	便箋
5 保護者へ手紙を書く。	・保護者に、普段、面と向かって言えない思いを手紙に表す。	

第四次

1 時間 「わたしのいもうと」を読んで話し合う

(作：松谷みよ子 絵：味戸ケイコ 偕成社)

【目標】一人ひとりが「違う」特別な存在であることを実感する。

学 習 活 動	指 導 の ポ イ ン ト	備考(準備物)
1 「わたしのいもうと」を読む。 (いじめの悲惨さを描いている絵本)	・黙読、指名音読、一斉音読などしながら読みこなしていく。	絵本「わたしのいもうと」 感想を書くプリント
2 感想を書く。	・自分の生活や生き方を重ね合わせて、感想を書くように助言する。	
3 感想を発表する。	・自分の言葉で伝え、それに対して周りからもコメントさせる。	
4 身近な友だち、地域の方々など、ちがってあたりまえの社会になっているのかどうかについて考え、話し合う。	・まとめの話し合いとして、これまでの学習を思い出させながら、最初は班で話し合い、その後学級全体で話し、生徒の感想を引き出す。	

取組みを終えて

学習障がいなどの支援の必要な生徒が、自身の障がいに気づかないまま自尊感情を低めてしまい、学習への意欲をさげ、夢へ向かう努力をあきらめてしまわないために、どんな気づきが必要か。そんな思いが教材づくりのスタートだった。

「思いもよらなかった仲間の『違い』について知ることが相互理解の深まりとなること」「集団の励ましや理解が人を伸ばし、夢への一步を踏み出す勇気を与えること」を、夢をかなえた人を例に挙げ示した。

「誰もが『違い』のあるかけがいのない命」「お互いを知ることによりつながることができる」そのようなことを生徒たちが気づき理解できることで、「違い」を認め、生かすことができる集団に成長していくことであろう。

【 ポ イ ン ト 】

☆ 誰もが知っている著名人が、実は発達障がいであったエピソードを紹介し、生徒たちが興味を示すような導入を行っている。周りの関わり方や、本人が自分の特性を受けとめ「どう生きてきたか」にふれることによって、一人ひとりが違う存在であり、様々な可能性を秘めていることを考えさせている。このような導入から、自分自身の誕生のエピソードを聞き取ることで、個々の「違い」はありながらも生命の大切さの共通性を、自分について振り返ってみて考えさせている。このような取組みは、発達障がいがある生徒の自尊感情を高めることとともに、周りの生徒たちの発達障がいに対する意識変革を図り、偏見をなくしていくことにもつながると考えられる。このような取組みでは、導入から個々へと導いていくプロセスが大切であろう。

地域に育まれ、発展する学校づくり

～ 地域、社会福祉協議会と連携したボランティア活動（高齢者との交流）～

学年等

全学年 特別活動、総合的な学習の時間、放課後などの課外活動 など
～10 年先、20 年先の地域を担う人材の育成～

教員が田畑（学校や地域）を耕し、そこに蒔かれた種（生徒）が太陽の光を浴び（保護者や地域の人々の見守り）、
十分な水や肥料を与えられること（福祉委員会や市社会福祉協議会の協力）で、実りの秋を迎える。

ねらい

- ◇ 高齢者とふれあい、地域との関わりをもつことにより、人を思いやる優しい心を育む。
- ◇ 自分たちの住んでいる地域で役立つ活動を行うことを通して、『自己有用感』や『自己効力感』を育み、「自分自身」や「生きる意味」について考えるきっかけとする。
- ◇ 地域の方と生徒が一方通行の関係でなく、双方向の関係を作ることにより、地域との連携を深め、「学校力」（学校のもつ総合的な力）を高めていく。

【指導について】

学校周辺は、駅前の再開発が進み高層マンションが次々と建設される一方、それらの建物に埋もれてしまうように一人暮らしの高齢者の多く住む長屋もあちこちに残り、過去と未来が交錯する今日を代表するような環境である。一方、生徒の家庭生活面は昨今の不況が影をおとし、共働き世帯はもちろんのこと、経済的に厳しい母（父）子家庭も増え、生徒が家庭や地域の中で、日々あたたかく見守られることが少なくなってきた。また、学校生活においては、一見落ち着いているように見えるものの生活上の課題を抱えている生徒が多数いるのが現状である。

このような課題に対して、校区で小・中学校を見通した上で、どのように生徒を支援していくのかを考えると、学校・地域・保護者の連携をもとに様々な活動をする中で、人を思いやる優しい心を小さい頃から育てていくことが重要であると強く感じ、これらの実践が始まった。

生徒たちが高齢者との会話を楽しみ、はつらつとした前向きな姿にふれることにより、自然な形で自らの生き方を見つめるとともに、高齢者に対する敬愛の念を抱かせるようにしたい。

取組み

〔登録した生徒によるボランティア活動での取組み〕

- 「フラワー・プレゼンター」活動（一人暮らしの高齢者へ、誕生月に花束を渡して交流する）
- 毎月、保育所や特別養護老人ホームなどにおける絵本の読み聞かせ
- 季節ごとの駅前清掃に参加
- 地域イベントスタッフとして参加（盆踊り、コミュニティセンター祭り、土曜サロン、福祉祭り、敬老の集い、ミニ運動会など）

〔総合的な学習の時間などでの取組み〕

- 一鉢プレゼント（1年生が育てた花鉢を、地域の約 400 人の一人暮らしの高齢者宅にメッセージカードとともに届ける）

【取組みについて】

① 地域の関わり

校区の福祉委員会と中学校の連携は、地域におけるボランティア活動の高まりを背景に様々な形で展開されてきた。平成7年に、校区福祉委員会主導で『ふれあいの中から生まれる思いやり』をモットーに“福祉啓発看板”を設置し、翌平成8年には“ボランティア情報掲示板”を設置した。この後、生徒のボランティア活動への自主的な参加を呼びかける機運が生まれた。具体的には、校区福祉委員会を通して、一人暮らしの高齢者へ、誕生月に校区で準備された花束を中学生3～4人のグループが持参・訪問する世代間交流が始まり、平成10年からは『フラワー・プレゼンター』と名づけられ、「花束を届けることで、美しい心を届けよう」と、今日まで続いている。

もともと中学校3年間を見通した福祉体験学習を、校区福祉委員会が主体的に推進してきた経緯がある。これらの活動を通して、中学生に「人を思いやるやさしい心が育ってきた」と地域の方よりお褒めの言葉をいただき、生徒が日常的に地域の人たちと関わりを持つ中で、人としての生き方を学べる土壌をつくっていただいたと感謝している。

② 学校の取組み

地域の様々な応援を受けて、平成18年からは中学校が主体となり、生徒が自分たちの住んでいる地域で役立つ活動を行い、その体験を通して「自分」や「生きる意味」について学ぶ取組みを進めている。

福祉委員会、中学校、市社会福祉協議会の3者で「地域を通じた福祉教育」について論議を重ね、様々なボランティア活動を通して地域が子どもを育てるとともに、子どもが自分の中で育んだ心を地域にお返しする仕組みが構築された。

「こどもの夢が地域に花ひらく学校」を合い言葉に、『フラワー・プレゼンター』に加え、保育所や高齢者施設での絵本読み聞かせ、季節ごとの駅前清掃活動や地域行事スタッフ参加などを通して、地域づくりの後継者としての自己有用感(人の役に立つことがうれしい)を育む活動を行っている。

市社会福祉協議会も、福祉体験学習における用具貸し出しの申込みを受け付けるなどの事務的な作業にとどまらず、市教育委員会と合同で教職員向けの説明会や講演会を開催したり(啓発活動)、学校の会議や行事などにも参加し協力関係を築き、地域と学校を強く結びつける役割を担っている。

このような中で、生徒は「自分」や「生きる意味」について学ぶことができ、様々な体験を通して地域づくりの後継者としての自己有用感を育んでいる。

取組み例

□ 一鉢プレゼント(一年生の特別活動や総合的な学習の時間など)

年に一度、一年生が育てた花鉢を地域に住む約400人の一人暮らし高齢者宅へメッセージカードとともに届けている。民生児童委員に協力を依頼し、校区内に住む600人を越える一人暮らし高齢者宅へ事前に趣旨を伝えてもらい、受けとってもらえるかどうか確認することから始める。高齢者の中には、「今年は何の花?」と、孫のような中学生と話ができることがうれしくて、今年は「いつ来てくれるの?」と心待ちにしてくださる方もたくさんいる。

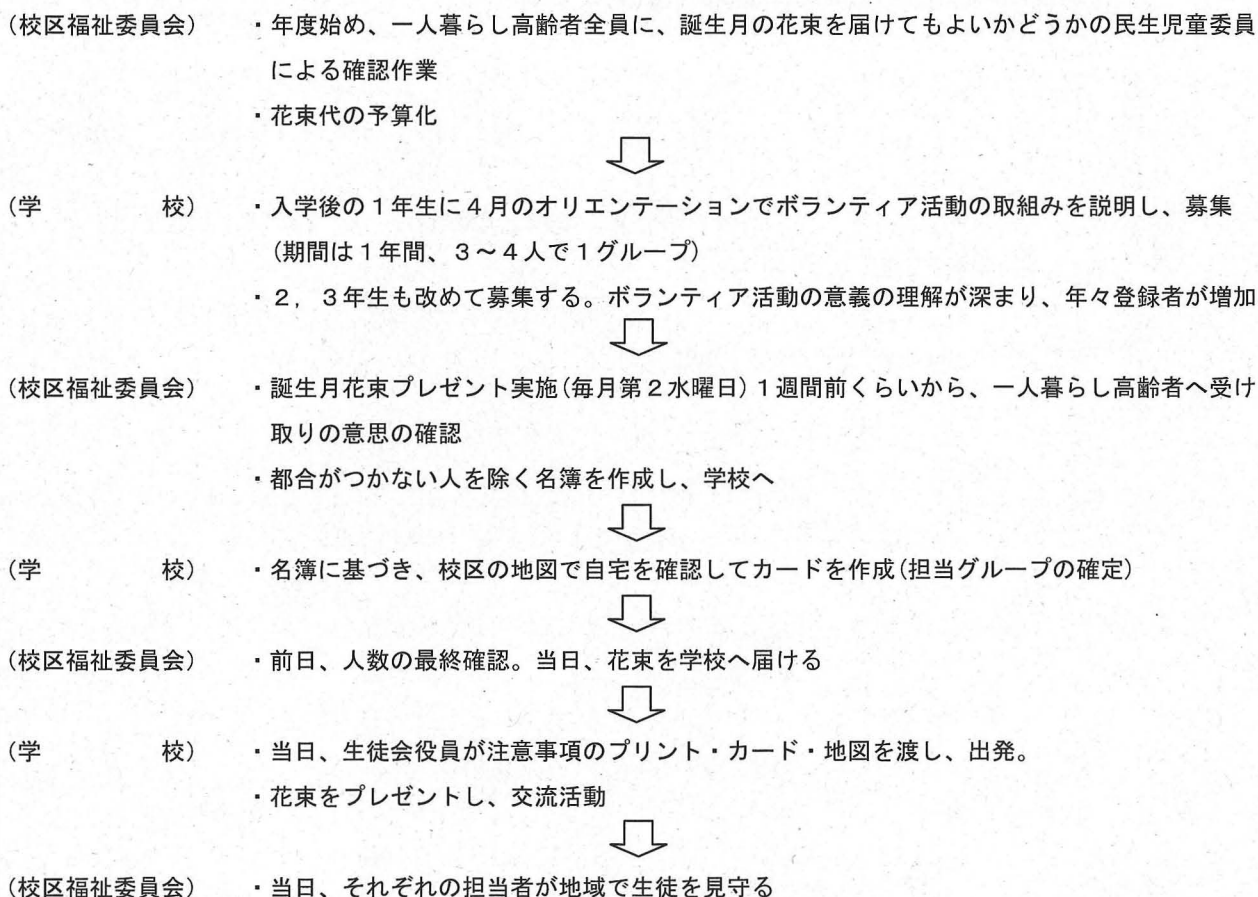
土に種をまき、水や肥料を与え、月日をかけて自分たちが育てた鉢花を開花時期にあわせて地域に住む高齢者宅へ届ける作業は、自然が相手でこちらの思う通りにはいかず大変であり、すくすくと成長するものもあれば、芽を出さなかったり、成長のよくないものがあったり、中には途中で枯れてしまうものもでてくる。その月日と苦勞が生徒たちに、「この一鉢プレゼントは、単に花そのものを届けること

ではないんだ。自分たちが時間をかけて育ててきた思いと、地域に住む高齢者の方たちにいつまでも元気でいてほしいという願いを込めて、メッセージカードとともに届けるんだ。」ということをお教​​えてくれている。

□「フラワー・プレゼンター」活動（放課後の課外活動：毎月約15人の方に切り花や鉢花を届ける）

校区福祉委員会を通して、一人暮らしの高齢者の誕生月に、校区で準備された花束を生徒会からあずかり、中学生3～4人のグループが持参・訪問する世代間交流（ボランティア活動）

<役割と実施までの流れ>



ありがとう。3年生？
受験がんばらんあかな。
勉強中の頭の休め方を
教えてあげよう。
1都1道2府43県を書
き出してごらん。



お誕生日、
おめでとう
ございます！

＜当日、生徒に配布するプリントの文面の例＞

【フラワー・プレゼンターのみなさんへ】

今月は、みなさんのグループに行ってもらいます。途中、気をつけてしっかりと届けてください。よろしくお願いします。

おじいさん、おばあさんへは、地域の民生委員さんが、事前に、今日、みんながお花を届けてくれることを伝えてくれています。

「お誕生日おめでとうございます。」、「お元気にお過ごしですか?」などと言ってお花を渡したら、せっかくだから、どんなことでもいいのでお話をきてください。喜んでもらえるはずです。

【注意事項】

- * カードに感想を記入し、地図といっしょに返却してください。

個人情報(住所・電話番号など)が記載されているので、落したりなくしたりしないように注意し、必ず、学校へ持ち帰り返却してください。

- * 万一、留守の場合は（あきらめずに何回か呼んでください!）、いったん学校へ戻り、先生の指示にしたがってください。
- * 担当の民生児童委員さんも巡回してくださっています。訪問先がわからないなど困ったときは、近所の方に尋ねてみてください。
- * 服装はきちんとしていきましょう！ * 道幅いっぱいには広がって歩かない！
- * 今月のお花は「コスモス と シクラメン」です。

＜高齢者に花束とともに渡すメッセージカードの例＞

お誕生日（月）おめでとうございます

お元気にお過ごしですか。

今月お届けする鉢植えの花は、A中で種をまき育ててきた『コスモス（秋桜）』と、校区福祉委員会からの『シクラメン』です。

コスモスの原産はメキシコの高原地帯で、これが18世紀末ヨーロッパに持ち込まれ『コスモス』と名づけられたようです。日本には明治20年頃渡来したと言われています。

日当たりと水はけが良ければ、やせ地でもよく生育します。景観作物としての利用例が多く、河原や休耕田、スキー場などに植えられたコスモスの花畑がよく紹介されたりしています。

鉢植えの『コスモス』と一緒にお届けする『シクラメン』の花は、皆様の手で鉢植えにしていただくか、庭に直植えしてください。

＜生徒の感想＞

～帰り道でのつぶやきより～

- 一人で生活してすごい。面白いところがうちのおばあちゃんに似てる。これからは元気で長生きしてほしいです。
- 話を聴くのが楽しい。勉強の仕方を教えてもらえた。最初の頃は緊張したけど、「ありがとう」と言われるとうれしくて自分も幸せだなと感じる。次はどんな人に会えるのか楽しみ。
- 道がわからず迷ったけれど、途中で道を教えてくれる人がいて助かった。いろいろな人のおかげ。
- 81歳には見えないめっちゃ若々しいおばあちゃん、今でも山登りをしているらしく、スゴイ！感動！お花が好きだったみたいで、すごく喜んでもらったのがうれしかった。

<お花を届けた方からのお礼の手紙>

- 今年もまた、A中のお子たちが、花束をもって訪ねてくれました。外は暑い日だったのに、有難く思いました。三人のお子たちはにこにこして、私の話をずっと聞いてくれて、長話をしてしまい、みんなの帰るのを遅くしてしまいですまなかったです。

テレビや新聞で、一部の子どもたちのすさんだ記事を見るたびに、A中の子どもたちの未来に幸多かれと祈りたい気持ちです。A中の先生様やA校区の役員の皆様のがんばりで、お子たちを守ってあげておられるのだと思っています。

どうか皆様、病気やケガに気をつけてがんばってくださいね。きれいなお花ありがとうございました。

先ずは、お礼まで、早々

A町のおばあさんより

- B、C、Dちゃん。こんにちは、先日花の苗を届けて頂いた76才のおばあちゃんです。

三人共お変わりありませんか？雨の中ほんとに大変でしたね。でも私達年寄りにとっては幸せなひとときでした。嬉しすぎておしゃべりして時間オーバーしたこと、お詫びします。反省…。

お花はもちろんのこと、何よりも貴女達の可愛かった笑顔は何にも代えがたい宝物になりました。子どものいない私にとって、やさしかったあの笑顔はいつまでも心に残って忘れることができません。お花が咲いたらと思っておりましたが、赤い蕾が出ましたので、報告のお礼の一言、またこれからの貴女達の幸を願って一筆取りました。来年には故郷、鹿児島に引き上げますが、いつまでもあの笑顔のままで貴女達が大人になれます様に。ほんとにありがとうございました。A中の先生方にも心より感謝致します。

さようなら

<生徒の感想>

～3年生最後のフラワープレゼントを終えて～

おばあさんが私たちに会うために、用事をぬけてきてくれて、とてもうれしかったです。

今日が最後のフラ・プレ（フラワープレゼンター活動）だと思うと、さみしいです。このフラ・プレで、人の優しさ、あたたかさ、それから人とふれあうことの大切さを学ぶことができました。

たくさんの人の笑顔を見ると幸せになれる……！！

取組みを終えて

〔地域との新しい関係作りをめざして〕

総合的な学習の時間などで実施している福祉体験学習にしても、フラワー・プレゼンター活動を始める様々なボランティア活動にしても、従来のように教員が準備したものを生徒へ伝達していくという一方通行ではなく、地域の方と生徒が直接相互に関わり合う双方向的な関係づくりをめざしている。このことこそが、「学校力」を高めることになると考えている。

地域で様々な活動に取り組んでいる人々の姿を直接見ることがなくても、一人暮らしの高齢者との関わりを通して、実に多くの人に関わりや協力があることを知ることができる。そうして「ありがたいなあ」という気持ちを持ち、お互いを認め合う関係づくりができ、教室では学ぶことのできない貴重な体

験として生徒たちの心の中に蓄積されていく。地域に生まれ、発展する学校づくりをめざすこととは、言い換えれば、10年先、20年先の地域を担う人材を育成することである。そのためには生徒自身が企画・立案・実行していく方法を取り、例えば、主体的な運営を生徒会役員などに任せ、生徒会活動の一つとして取り組むようにしている。

その他、生徒会の朝のあいさつ運動（全生徒が交代で1週間校門に立つ）時に、生徒による校門周辺の清掃活動も行われている。校内美化活動については、生徒会の委員会活動としてだけでなく、別にボランティアを募り、昼休みや放課後にも清掃活動を行っている。このボランティア活動は、「学校にアメやガムの包み紙が落ちていたり、ガムが吐き捨てられていたりしているのはおかしい。もっと自分たちの学校をきれいにしたい。」という一部の生徒の訴えかけが、生徒会を動かしたものである。今では、「今から校内美化活動を始めるので、美化委員の人とボランティアの人は中庭に集まってください。」という放送が昼休みに流れ、自然と生徒たちが動く姿が定着してきた。

さらに、このような一つの中学校での小さな取組みが広がり、市内の中学校生徒会全体（中学生サミット）において、“街ピカパレード”という清掃活動が企画された。このように生徒が生徒を動かす活動は、教科の学習ではなかなか学びにくいことを多く学べ、良好な人間関係を築くことができる。そのことは、生徒それぞれが夢の実現に向かっていく一助となり、いつの日か地域の一員として新たな地域づくりを進めていってくれるに違いない。

今日、教員が声を大にして「さあやるぞ、ついてこい。」では、生徒たちはなかなか動かない。生徒が生徒を動かしてこそ、本当の意味でのボランティア活動が定着していくのだと思う。

このようにして生徒の心に芽生えた蕾が地域に広がり、高齢者からは優しさと思いやりという肥料も加わり、あちこちに花がひらく町になることが、生徒と地域とのつながりや生徒の心の落ち着きや成長に繋がり、ひいては10年先、20年先の地域を担う人が育っていくのだと実感している。

【ポイント】

☆ 核家族化やコミュニティ意識の低下により、現在の子どもたちは、「教員と生徒」、「親と子」といった「タテの関係」と、同学年どうしの「ヨコの関係」の二次元の世界で生活することが多い。「タテの関係」も「ヨコの関係」も責任感や競争意識といった緊張感が高い関係である。

一方、この取組みにより、地域住民とのリラックスできる「ナナメの関係」の交流を通して、生徒たちが「自己効用感」や「自尊感情」を身につけていくことが可能となろう。地域住民と学校が協働参画型で展開されている、地域福祉の推進に資するボランティア学習の実践である。

【学校における取組み事例作成協力校】

学 校 名
高槻市立五領小学校
茨木市立白川小学校
茨木市立福井小学校
松原市立天美小学校
和泉市立青葉はつが野小学校
和泉市立和気小学校
岬町立深日小学校
寝屋川市立第三中学校
松原市立松原第三中学校

【平成 21 年度：大阪府福祉教育指導資料集作成委員会名簿】

所属・職名	氏 名
大阪教育大学教育学部教養学科・准教授	新 崎 国 広
高槻市教育委員会・指導主事	佐 藤 美 恵
茨木市教育委員会・指導主事	尾 崎 洋 司
寝屋川市教育委員会・指導主事	竹 内 和 雄
松原市教育委員会・指導主事	中 山 久美子
河内長野市教育委員会・指導主事	今 村 尚 美
和泉市教育委員会・指導主事	大 橋 敏 宏
岬町教育委員会・参事	山 路 浩 史
大阪府教育センター支援教育研究室・主任指導主事	野 崎 理 子
大阪府教育委員会小中学校課・主任指導主事	野 田 健 司
大阪府教育委員会支援教育課・指導主事	中 平 好 美
大阪府教育委員会小中学校課・指導主事	堤 周 作
大阪府福祉部障がい福祉室計画推進課・主査	河 原 竜 義
大阪府福祉部障がい福祉室計画推進課・主事	菅 祥 明
大阪府社会福祉協議会地域福祉部・主事	高 田 哲 平